

名作再読、拾い読み (24)

『よみがえった改心』("A retrieved reformation")

小澤 文彦

オー・ヘンリー (O. Henry) (1862-1910) はアメリカの短編小説家で、本名はウィリアム・シドニー・ポーター (William Sydney Porter) です。ノースカロライナ州ギルフォード・カウンティのグリーンズボロで、医師の子として生まれました。3歳の時に母と死別しています。父が酒浸りになったため家が破産。ドラッグ・ストアや牧場で働き、その後、土地会社の帳簿係や登記係となります。25歳の時に結婚し、妻のエイソルの勧めで書いた小品がある雑誌社に採用されますが、未だ創作活動をするには到っていません。彼はファースト・ナショナル銀行に雇われて出納係になりますが、銀行の経営は乱脈を極めていて給料は少なく、生活は苦しい状態でした。友人達が資金を援助してくれたので、丁度その時売りに出ている新聞社を買って週刊誌「ローリング・ストーン」を創刊します。しかし、経営に失敗し、フリー・ランスの新聞記者になった後、新聞社『ヒューストン・ポスト』に就職します。彼は記事以外に絵も上手だったので、彼の描く風刺的な戯画が掲載されると新聞の人气が上がりました。収入が増えて生活が安定するようになった丁度その時、突然ファースト・ナショナル銀行から横領罪で告訴され、ホンジュラスへ逃げます。しかし、妻が危篤だという知らせを受けて帰国し、自首して保釈を申請後妻を看病。半年後に妻が亡くなってからオハイオ州刑務所に収容されますが、模範囚だったので5年の刑期が短縮されて3年余りで出所しました。服役中に書き始めた短編が目目され、出所後はニューヨークに出て、作家活動に専念し、『キャベツと王様』(1904)、『四百万』(1906)、『西部の心』(1907) など13冊の短編集を出し、合計270余りの短編を発表します。人情味豊かな作風で庶民の哀歎を描いた作品が多く、『賢者の贈り物』(1905)、『最後の一葉』(1905) など巧みな描写とどんでん返しのあるストーリーによって、短編小説の名手と言われました。彼には飲酒癖と浪費癖があったので、再婚した妻や子供と離れて単身ニューヨークで暮らします。48歳で亡くなりましたが、死因は肝硬変でした。

彼の作品の中から『よみがえった改心』を紹介します。刑務所で服役中のジミイ・ヴァレンタインは、知事による赦免により刑期が短縮されて早めに出所することになりました。自分の

元の部屋に戻った彼は、早速隠し場所から特別に誂えさせた金庫破りの七つ道具を取り出します。彼が釈放された1週間後から始まった連続金庫破りの事件現場を検証した名探偵ベン・プライスは、鮮やかな手口からジミイの仕業だと見破り、彼の行方を追います。

ジミイはアーカンソー州の小さな町エルモアにいました。通りで自分を追い抜いた若い女性の眼を見た瞬間、彼は我を忘れてしまいます。彼女はアナベルという名前でエルモア銀行の経営者アダムズ氏の娘でした。恋に目覚めた彼は真人間になるためにラルフ・スペンサーと名乗り、靴屋を開業して経営に成功し、1年後には世間の尊敬を勝ち取ります。アナベルとは2週間後に結婚することになりました。ジミイは金庫破りから完全に足を洗う決心をして、相棒に特製の道具を譲り渡すという連絡をします。

ジミイが相棒に会いに出掛ける日が来ました。エルモア銀行は新しい金庫室が設置されたばかりで、アダムズ氏はそれを自慢したくてたまりません。ジミイに説明している間、メイとアガサというアダムズ氏の二人の孫娘も傍らに居ましたが、皆が気付かないうちに、幼いメイがふざけてアガサを金庫室の中に閉じ込めてしまいました。金庫室のドアは直ぐには開けられません。中の声は次第に弱々しくなっていく、アガサの母親は半狂乱状態です。ジミイを追っていたベン・プライスは丁度この時エルモアに来ていて、銀行に立ち寄ったジミイを注意深く観察していました。

ジミイにとって金庫室を開けるのは容易ですが、ベン・プライスの前でそうすれば、過去の犯罪が明らかになり、愛も財産も全て失ってしまうでしょう。彼はどうすべきか、人間としての生き方を考えさせられる物語です。

参考文献

1. O. Henry "A retrieved reformation" in "41 stories" (Signet Classic, [1984])
2. O. ヘンリー著 大久保康雄訳『よみがえった改心』(『O. ヘンリー短編集』(1)より) (新潮社、1969)

おざわ ふみひこ (情報サービス課)